

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510

TEL : 0838-21-7765

e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp

HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

萩ジオパーク構想の教育活動の取組について

市内各小中学校の担当者による教育部会が設置され、初会議が開催されました

2月15日（月）、午後3時から萩市中央公民館で、萩ジオパーク構想推進協議会の「教育部会」が開催されました。部会長の中村哲夫教育長が会を招集、協議会委員以外に市内各小中学校のジオパークを担当する先生方が出席しました。出席者の中から副部会長として、越ヶ浜小学校の田中泰博教頭先生が選出されました。また、オブザーバーとして阿武町教育委員会からも担当者の出席がありました。

中村部会長の挨拶では、萩でのジオパーク取組の意義について説明があり、事務局から「ジオパークとは?」、萩での取組の状況、昨年秋に制定された萩市学校教育基本計画に萩ジオパーク構想が明示されていることの説明がありました。また、各学校においては、担当者を中心に、今年1年の年間計画を見直し、その中でジオパークに関わる内容の洗い出しをすることをお願いしました。参加した先生方からの提案により、学校でジオパークについてどんな取組ができるのか、小グループで協議を行いました。その中で、小学校では理科教科の中で扱うのは時間的に難しい、今の学校には教材にするジオ的な場所がないなどの意見が出るのと同時に、すぐに使える素材・映像等がほしいという要望も出ました。

昨年度から活動している「ジオな教育」推進委員会では、「学校現場で使える教材」としてジオサイトの画像提供や「笠山」、「須佐湾」などの現地見学会を実施してきました。そして、2月10日（木）には、委員会メンバーである萩東中学校の藤田尚子先生による、中学1年生の理科（単元「大地が火をふく」）の中で、地域素材である「阿武火山群」を扱った公開授業を行いました。萩東中学校は、校区内に鶴江台と中ノ台の2つの火山をもちます。萩の火山を紹介しながら実験を行い、火山の形はマグマの粘り気で決まることを確認しました。授業の終わりに「萩の火山の自慢をしてください」という発言に、生徒たちの「にこり」とした表情が出て、「今日の授業で一番嬉しかった」と、指導した藤田先生の感想でした。授業のねらいが、達成できたのではないかと思います。

萩の火山（特に、校区内の火山）というジオの素材を、授業に取り入れるには手間がかかることです。しかし、このことにより「生徒たちの笑顔」、すなわち「ふるさとへの誇り」、「愛着の一步」が生まれたとも言えます。「ジオな教育」のメンバーによる教材開発と部会を通じた学校現場での実践の積み上げが、萩ジオパーク構想の教育活動です。



(中村部会長の挨拶)



(事務局からの説明を聞く参加者)

萩ジオパーク構想のロゴマークができました

萩六島や内陸部に点在する小規模な溶岩台地は、活火山・阿武火山群を形づくる火山です。これは萩だけのユニークな火山地形です。右のロゴマークは、阿武火山群を始め豊かなふるさとの自然を、私たちが虹の架け橋となって守り、生かしていくことにより輝かしい未来が待っていることをイメージしたものです。また、イメージカラーの赤は、大地の持つエネルギーとその大地を守り、未来に伝えていきたいという私たちの思いが、1つになった時に発せられる色です。このロゴマークにより、萩ジオパーク構想をさらに広め、日本ジオパーク認定をめざし、一丸となって頑張っていきましょう。



第5回ジオパーク講座 2/21(日) 萩博物館 午後 1:30～ 講師：松林 明 先生
“ジオパークを通してユニークな自然と豊かな恵みを楽しんでほしい”

東京生まれで東京育ちの松林 明さん(有限会社アンタス代表)が、今回、NHKの『さわやか自然百景』で山口・阿武火山群を取り上げることは、ある強い思いときっかけがありました。松林さんの祖父は、萩出身の画家・松林桂月。また、お母さんの実家は阿東町(現山口市)徳佐にあり、幼い頃から萩の話題を耳にしたり、山口県にも何度か来ていたそうです。その頃見た桂月の“長門峡の滝”の絵が強く印象に残っていました。そして、いつか山口の自然を撮影してみたいと思うようになりました。数年前に、桂月の生誕を記念した展示会があった際、歴史の町・萩には50余りの火山があり、それは単成火山群として世界でもユニークであること。このことが、それまで松林さんが知らなかった萩の意外な面を知ることになったのです。それまで火山を中心にした作品はなく、是非、火山とそこに息づく生き物たちを主人公に撮影したいと思われたそうです。わずか15分間の作品(番組)づくりに、延べ10日間の撮影ロケを行いました。自然の感動を映像で伝えること、過去の出来事である火山噴火を「今あるもの」でイメージする手法など、むずかしい課題が多くありました。しかし、今回の番組づくりでは、地元の方からの協力が得られ、また偶然の幸運とチャンスに恵まれて、予想以上の作品に仕上がったそうです。

講演の中では、実際に『さわやか自然百景』を上映しながら、制作を通して感じた萩への思い、レンズから見た萩の印象を熱く語っていただきました。萩の方には、ユニークな自然とそれが生み出す豊かな恵みを楽しみ、そして今なお残る何気ない田舎の景色に心をなごます人々であってほしい。ジオパークを通して、そうした萩の自然に触れる人が増えてほしい。ロケの途中で、昼食に立ち寄った小学校の壁に掲示された、「画用紙に 夢を描いたら はみ出した」という川柳。「そんな思いを描ける子どもを育む風土が、この萩にはあることに感動した」と講演を締めくくられました。



(レンズから見た萩の印象を話す松林さん)

越ヶ浜小学校の児童が、笠山をガイドします！

頑張りにご声援ください！ 3/12 (土) 10:00～11:30

ジオサイトの1つ「笠山」を校区内に持つ越ヶ浜小学校の4年生は、この1年間、「総合的な学習の時間」などを通して、笠山について学んできました。実際に虎ヶ崎椿群生林まで行き、案内をしてくださった地域の方から、椿に関して学んできました。薪や炭にするために伐採した歴史、椿が地域の人々の生活に密着していた話などを聞きました。一人一人が興味を持ったこと(椿群生林、明神池、火山、コウライタチバナ、風穴、エビ池)について学習を深め、パンフレットの作成も行いました。自分たちの好きな笠山について、多くの方に知ってもらいたいと思い、ちょうど今、開催中の萩椿まつりの会場で、ガイドに挑戦することにしました。事前に、椿見どころ案内人の方にも、ガイドをする時の大切なことを教えてもらいました。3月12日(土)、午前10時からお祭り広場を中心に行います。是非、会場で頑張る姿をご覧ください。



(実際のガイドの方からの話を聞く小学生)

3月の予定

- 笠山展望台ガイド 3月6日・13日(日)、11:00～14:00、場所：笠山山頂展望台3階、主催：萩ジオパーク構想推進協議会
- 小学生によるガイド 3月12日(土)、10:00～11:30、場所：笠山椿まつり会場、主催：越ヶ浜小学校
- 萩ジオパーク構想推進協議会臨時総会 3月22日(火)、14:30～、場所：萩市役所2階大会議室、対象：推進協議会会員(団体・個人)、主催：推進協議会
- 萩往還ワンデーウォーク 3月26日(土)、9:00～、場所：萩往還：佐々並・明木～中央公園、対象：小学生以上(小学生は保護者同伴) ※事前申込みの必要有 主催：萩往還ワンデーウォーク実行委員会
※旭地域のジオサイトを解説予定